歴史に学ぶ

山口Historia ヒストリア

2023.9.15

第７号

特集１　毛利隆元生誕500年　―御屋形様の婿殿と山口―
特集２　吉敷生まれの内務大臣　内海忠勝と内海家文書
特集３　山口ヒストリア講演会７　「大内義弘と室町幕府」　講演要旨
コラム　周布政之助生誕200年

常栄寺（宮野下）

―御屋形様の婿殿と山口―

今年は安芸国（現在の広島県西部）の戦国大名・毛利隆元の生誕五百年にあたります。隆元は大内義隆の娘婿で数年間の山口滞在歴のある、山口ともゆかりの深い人物です。ここでは隆元と大内氏や山口とのかかわりを中心に取り上げます。

紙本着色毛利隆元像（常栄寺蔵）

○山口滞在

毛利隆元は、大永3年（一五二三）に安芸国の有力領主・毛利元就の長男として誕生しました。当時の毛利氏は大内氏と出雲国（現在の島根県東部）の尼子氏の二大勢力の狭間で去就に苦心していました。

そのため、隆元は天文6年（一五三七）12月から天文10年夏頃まで大内氏の人質となり、山口に滞在しています。その間、天文6年12月19日に山口で元服し、大内義隆から一字を賜って隆元と名乗りました。山口滞在中、当時先進地であった山口の文化に触れ、「山口かゝり」（山口かぶれ）になったと元就を心配させたこともありました。

○滞留日記と結婚

滞在初期の記録「毛利隆元山口滞留日記」（『山口市史 史料編 大内文化』に収録）が残っており、現在の瑠璃光寺近くにあった大蔵院（たいぞういん）という寺院を宿泊先にし、湯田・国清寺（こくしょうじ）（現洞春寺の地）・香積寺（こうしゃくじ）（現瑠璃光寺の地）・法泉寺・氷上・立売（太刀売）など各地を訪れたことが記されています。

帰国後、天文15年頃に元就の隠居を受けて、毛利家の家督を相続しました。そして、天文18年頃には義隆の養女（実は重臣で長門国守護代・内藤興盛の娘）である尾崎局（おざきのつぼね）を正室に迎えています。二人の間には毛利輝元・津和野局（つわのつぼね）らが生まれました。

○晴賢・義長との戦い

天文20年、毛利氏は大内氏重臣で周防国守護代・陶晴賢（すえはるかた）らが起こしたクーデターに協力します。晴賢が義隆を自害に追い込む中、毛利氏は見返りとして安芸国を中心に勢力を拡大させたものの、今度はその晴賢との関係が悪化していきます。晴賢との対決に躊躇（ちゅうちょ）する元就に対して、隆元は晴賢との主戦論を唱えています。

結局、両者は激突し、毛利氏は弘治元年（一五五五）の厳島の戦いで晴賢を敗死させ、防長侵攻を進めます。そして、弘治3年には大内氏最後の当主・大内義長を長府で自害させ、大内氏を滅ぼしました。

○大内氏の「後継者」

毛利氏は大内氏の領国の大部分を支配下におき（九州北部は豊後国の大友氏と争う）、中国地方の一大勢力となりました。その後、隆元は義隆が生前に建立したものの断絶していた龍福寺を、大内氏館の跡地に再興し、義隆の菩提を弔っています。

さらに、隆元は将軍足利義輝から大内氏の断絶中は周防・長門両国の守護職を預け置くとの命を受けています。毛利氏が尼子氏や大友氏と抗争を繰り広げる中、永禄6年（一五六三）8月4日、隆元は尼子氏攻めに向かう途中で元就

特集1 毛利隆元（もうりたかもと） 生誕500年

に先立って急死しました。

○菩提寺・常栄寺

このように生前から山口とゆかりのあった隆元ですが、その没後、より一層山口と密接なつながりができます。慶長5年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いで輝元らの西軍が徳川家康らの東軍に敗れ、毛利氏の領地が防長二か国に減封されると、安芸国にあった隆元の菩提寺・常栄寺も山口に移ってきたのです。常栄寺は大内盛見（もりみ・もりはる）の菩提寺・国清寺の地（現洞春寺の地）に移転します。

その後、幕末の山口移鎮の影響で、常栄寺は文久3年（一八六三）に宮野の現在地（妻尾崎局の菩提寺・妙寿寺の地）に再度移転し、妙寿寺と合わせて興国寺となります。明治初めに妙寿寺と分離し、潮音寺と改称します（興国寺の名前は妙寿寺が引き継ぐがすぐに廃寺となる）。そして、明治21年（一八八八）に常栄寺に名前を戻し、現在に至ります。なお、常栄寺の跡地には、萩から父元就の菩提寺・洞春寺が移転してきます。

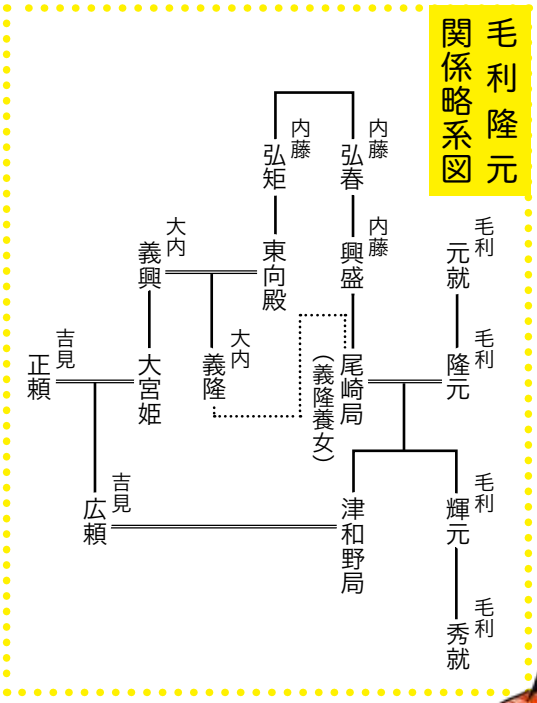
洞春寺

○隆元の神霊

長州（萩）藩では歴代当主のうち、特に元就・輝元・秀就（輝元の長男で初代藩主）を「御三霊様」として別格で萩の霊社に祀っていました。

これに対して、常栄寺十三世・韶陽祖溟（しょうようそめい）が藩へ嘆願し、嘉永6年（一八五三）に隆元に「感徳霊神」の神号が白川家（伯家神道を伝える公家）から許され、「御三霊様」と同等に扱われることが認められました。

山口移鎮で藩主が山口に移ると、霊社の遥拝（ようはい）所が多賀神社（当時は水の上）の境内に設けられました。さらに、霊社は明治2年に多賀神社の仮殿に遷され、その後、元就を祀るために造営された豊栄（とよさか）神社の別殿で祀られるようになりますが、明治6年に東京に移転しました。



多賀神社跡（現在の山口県水の上分庁舎の辺り）

海忠勝（みただかつ）と内海家文書

山口市吉敷地域出身で内務大臣や各地の知事などの要職を歴任し、男爵の爵位まで授与された内海忠勝。昨年・令和4年（二〇二二）12月、内海忠勝の曽孫・内海勝彦氏から山口市に貴重な内海家の関係史料146点が寄贈されました。この機会に内海の活躍を振り返りたいと思います。

内海忠勝肖像画（山口市歴史民俗資料館蔵）

○宣徳隊の結成

内海忠勝は天保14年（一八四三）8月19日に周防国吉敷郡吉敷村（現在の山口市吉敷地域）で生まれました。生家は吉敷毛利家家臣の吉田家で、後に同じく家臣の内海家の婿養子となりました。吉敷毛利家の郷校・憲章館で学び、文久3年（一八六三）に名和道一ら吉敷毛利家中の同志らと宣徳隊を結成します。

元治元年（一八六四）初めに下関の奇兵隊で武術や火術を学んでいます。そして、禁門の変では家中の同志らと上京しています。敗戦による帰藩後、謹慎処分を受けました。謹慎を解かれると、秋穂二島の山尾家（山尾庸三の生家）に剣術指南として約半年滞在したそうです。

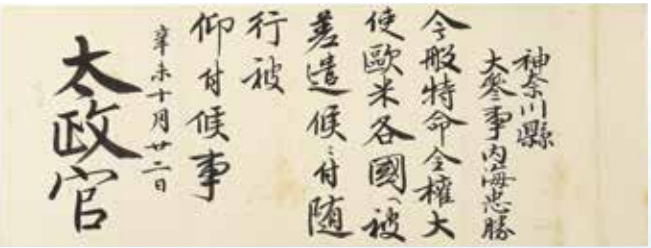
○幕末の連戦

高杉晋作らの功山寺決起で内訌（ないこう）戦（せん）が起きると、家中の同志らと御堀耕助率いる御楯（みたて）隊に合流し、慶応元年（一八六五）の大田・絵堂の戦いに参加します。戦勝後、山口に引き返した内海と同志らは諸隊中に分散することとし、内海は河瀬真孝（山口市佐山地域出身）率いる遊撃隊に移ります。

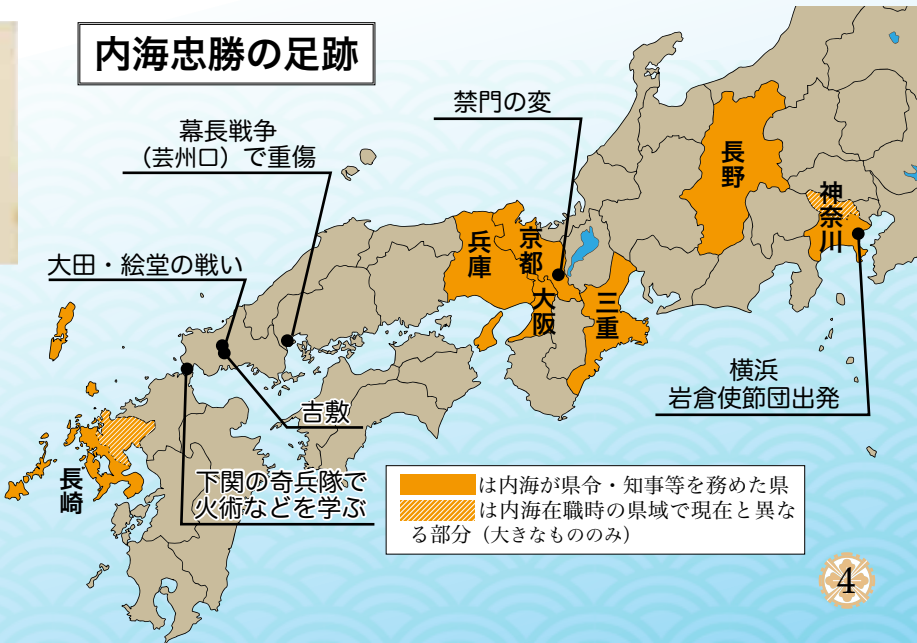
内海は遊撃隊に従って高森（現岩国市）に駐屯していましたが、吉敷毛利家の軍制改革のため、乞われて吉敷に帰ります。そして、慶応2年には吉敷毛利家の家臣からなる良城隊の第五小隊の司令士として幕長戦争（四境戦争）に臨みます。芸州口の戦いでは腹部に銃弾を受けて重傷を負い、療養に努めました。

○新政府出仕

その後、戊辰戦争が始まると大阪に出て、伊藤博文の支援で、明治元年（一八六八）6月に兵庫県に出仕し、



辞令（今般特命全権大使欧米各国へ被差遣候ニ付）（山口市歴史民俗資料館蔵）



特集２　吉敷生まれの内務大臣 内（うつ）

新政府の役人としての一歩を踏み出しました。さらに、明治３年に神奈川県に転じました。

明治４年には伊藤博文の骨折りで、岩倉使節団の一員として欧米視察に加わり、アメリカ・イギリスなどを訪問しています。滞米中には先に渡米していた名和と旧交を温めています。地方制度取調のため、滞英期間の延長を認められ、明治６年にフランス・ベルギー・オランダ・ドイツ・オーストリア・イタリアなどを経て帰国しました。

○高官の歴任

日本に帰ると大阪府に奉職し、明治10年に長崎県権令に任じられたことを皮切りに、長崎・三重・兵庫・長野・神奈川・大阪・京都などの県令・知事等を歴任しました。この間には、長野県の県庁移転問題、神奈川県内の多摩地域の東京府編入問題などの難問にも対処しています。その後、明治33年には会計検査院長に任じられ、さらに男爵を授けられています。

そして、明治34年６月２日から同36年７月15日までの約二年間、第一次桂太郎内閣の内務大臣を務めました。現在の山口市域出身の国務大臣としては、井上馨（湯田地域出身）に続く二人目でした。内海は明治38年（一九〇五）１月20日に東京で亡くなりました。吉敷の内海家旧宅近くにある良城神社の境内には、内海忠勝の顕彰碑が建立されています。

○内海奨学会

内海忠勝の息子・内海勝二氏の遺志を継いだ遺族からの山口市への寄付金によって、市では昭和43年（一九六八）に「財団法人内海奨学会」を発足させ、長年にわたってその奨学金が苦学生たちを支えてきました。この制度は平成22年（二〇一〇）に現在の山口市奨学金制度が創設されるまで続きましたが、内海奨学会の財産はその志とともに新制度に引き継がれています。

○内海家文書

この度、山口市に寄贈された内海家文書の特徴として、内海忠勝の辞令書類が豊富に残っていることが挙げられます。男爵を授与された際の爵記や内務大臣に任官した際の官記なども含まれています（どちらも明治天皇の親署あり）。また、内海が各府県に奉職したことから、それらの地域にゆかりのあるものも含まれており、兵庫県知事退任後に同県居留地在住の外国人たちから贈られた感謝状など、興味深いものも多くあります。市では今後、内海家文書が多くの市民の目に触れ、また近代史研究に活用されるよう図っていきます。

感謝状（兵庫県知事内海忠勝ニ対スル居留外国人ノ感謝状掛軸）
（山口市歴史民俗資料館蔵）

内海忠勝顕彰碑（良城神社）

◆山口市歴史民俗資料館企画展
「吉敷毛利家の軌跡 ―郷土史料の新・再発見―」

この度発見された吉敷毛利家および、その家臣にゆかりある歴史的品々を紹介します。

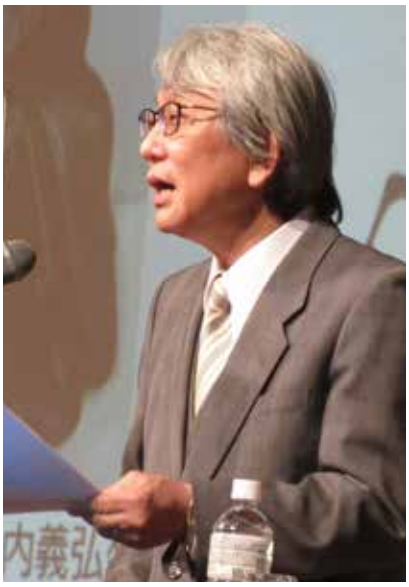
内海家文書も一部展示！

期　　間　10月７日（土）～12月17日（日）
所 在 地　山口市春日町５番１号
開館時間　９時～17時（最終入館は16時半）
入 館 料　一般110円（20人以上団体割引。１名につき88円）※18歳以下の方・70歳以上の方・障がいがある方とその付添いの方は無料
休 館 日　月曜（祝日の場合は翌平日）
問い合わせ　TEL ０８３―９２４―７００１

特集3

「大内義弘と室町幕府」講演旨要

令和5年2月4日、山口県教育会館ホールにおいて平瀬直樹先生（金沢大学教授）の講演会「大内義弘と室町幕府」を開催しました。瑠璃光寺五重塔にゆかりのある大内義弘の生涯について語っていただきました。



平瀬直樹先生（金沢大学教授）

はじめに

大内義弘の個性と生き様が、他の大名や武将とどう違っているのか、室町幕府（足利義満）との関係から、義弘の人生をたどる。

1 在京以前

義弘の父弘世は独立指向が強く、自分の力で防長両国を支配した。対して義弘は中央志向で、幕府の一員になろうとした。康暦2年（一三八〇）、義弘は九州での功績により、豊前国の守護に任命される。同じ年、義弘は父弘世と安芸国で合戦に至った。方向性の違う父弘世と義弘との間の溝が埋まらぬまま、戦の後に弘世は没し、義弘が大内氏の当主となった。

義弘には国際志向もあって、幕府の命による九州出兵で倭寇の本拠地を叩き、朝鮮王朝の信頼を得たことで幕府の評価が高まる。将軍足利義満は、義弘を出兵させるため、「義」の一字を与え「義弘」と名乗らせた。義の字は源氏の正統を受け継ぐ足利将軍の通字で、滅多と与えられず、そうした破格の待遇を受けた義弘は、京でも有名になっていた。

2 在京大名の中で

南北朝の終わりが見えた康応元年（一三八九）、周防国に立ち寄った義満に気に入られた義弘はそのまま京に随行した。その後、義弘は二つの大きな功績を挙げる。一つは、明徳の乱での奮戦である。この功績で義弘は和泉と紀伊の二カ国の守護となった。もう一つはその翌年、明徳3年（一三九二）の南北朝の合体である。この時、義弘は吉野の南朝が持っていた三種の神器を北朝に移送した。こうした功績で、義弘は左京権大夫の官職と、従四位の位階という栄誉を与えられた。

しかし、京にはさらに優遇された足利一門の大名たちがいた。義弘はそのような在京大名社会に不信を抱き、これに対抗すべく、九州探題の今川了俊に、大内＋今川＋大友（豊後の有力大名）の三者同盟を持ちかけるも、拒否されてしまった。その後、了俊は義弘の讒言により九州探題の任を解かれたが、後任にはやはり足利一門の渋川満頼が任命され、義弘は結局、九州探題にはなれなかった。

3 反乱へ

最高権力者となった義満に、京都の公家や大名たちはこぞって取り入ったが、そうした義満の政治に反感を抱いた義弘は、応永4年（一三九七）頃から急速に義満に反抗するようになる。義弘は外様の自分が足利一門や幕府中枢の人々に対抗するため、独自のアイデンティティーを求めはじめる。まず、自身のルーツを海外に求め、朝鮮王朝から百済の初代の王の子孫であると認められた。さらに独自の守護神として、妙見をアピールした。

そして、応永5年に九州に出兵するが、翌年、引き上げてきた義弘は京に戻らず、和泉国の堺で籠城する。有名な応永の乱である。義弘は鎌倉公方足利満兼を新将軍に立てることを目論んだ。しかし、満兼が肝心なところで動かなかった。義弘が世直しのつもりで始めた反乱は、大義名分を無くして謀叛になってしまった。潔く戦うことにした義弘は、応永6年12月に戦死した。

おわりに

義弘のアイデンティティーは子孫に受け継がれ、戦国期の政弘の代、大内氏の祖先伝説が完成する。また、息子の持世が筑前国の守護となり、大内氏は国の出入り口である関門海峡の両側、周防・長門・豊前・筑前を支配した。義弘は、こうして完成した大内氏独自の世界を準備した人であった。

講演会の様子

コラム

周布政之助（すふまさのすけ） 生誕200年

周布政之助（『偉人周布政之助翁伝』国立国会図書館デジタルコレクションより）

周布政之助は幕末に活躍した長州藩士で、「周布町」の地名の由来になっていることから市民にも馴染みのある人物です。今年はその周布が文政6年（一八二三）3月23日に萩で生まれてから二百年の節目の年になります。

周布は村田清風に影響を受け、藩の要職を歴任し、革新派（正義派）の中心人物として藩政改革を進めました。文久3年（一八六三）の山口移鎮で藩庁が萩から山口に移ると、矢原村（現在の山口市大歳地域）の大庄屋・吉富簡一宅に仮住まいします。

長州藩が禁門の変で幕府側に敗北、さらに下関戦争で欧米四か国に敗北し、対立する保守派（俗論派）の勢力が藩内で拡大する中、周布は元治元年（一八六四）9月26日に吉富家で自害しました。

敵兵が攻めて来た時に霊として現れて叱咤（しった）・排却（はいきゃく）するので、遺体を孔道（大きな通り）の傍らに埋葬するようにとの遺言に基づき、石州街道沿いの船田墓地に墓が建てられました。墓地の側には周布公園が整備されています。また、白石地域のサビエル記念聖堂近くには顕彰碑があります。

嗚呼長藩柱石周布政之助君碑（周布公園）

『第1回やまぐち伝統芸能フェス in 菜香亭』のお知らせ

令和5年10月15日（日）、山口市菜香亭にて、山口市内の伝統芸能団体4組が演技を披露します。出演予定団体は山口鷺流狂言保存会、赤崎神社十二の舞保存会、土居神楽舞保存会、小鯖代神楽舞保存会です。地域で長い間受け継がれてきた、美しい伝統芸能をご覧いただけるこの貴重な機会に、ぜひ皆さまご来場ください♪

歴史巡りの庭では、工房アリィさんによるワークショップやキッチンカー等も出店します！

※内容が一部変更になる場合があります。

日時　令和5年10月15日（日）
10時30分～15時30分（開場10時）

場所　山口市菜香亭　大広間・歴史巡りの庭
（山口市天花1―2―7）

申込　不要

料金　無料

駐車場　あり

問い合わせ
山口市交流創造部文化交流課 歴史文化のまちづくり推進室
〒753-8650　山口市亀山町2番1号
TEL 083-934-4155　FAX 083-934-2670
E-mail：bunka@city.yamaguchi.lg.jp

「大内氏館」「高嶺城」御城印（通常版）販売中！

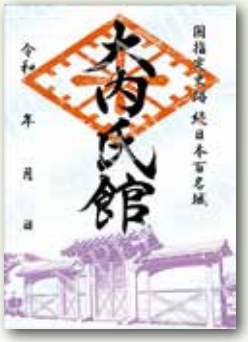
昨年の秋に、築山跡史跡公園の開園を記念した期間限定版の御城印を販売し、好評をいただきました。今年の春からは、デザインを変更した御城印を販売しています。

「大内氏館」は現地に復元整備した西門を、「高嶺城」は現地の石垣をデザインしています。

「大内氏館」、「高嶺城」の揮毫は、山口市教育長　藤本孝治によるものです。

販売場所　**山口市歴史民俗資料館**（山口市春日町5番1号）【月曜日休館】・**大路ロビー**（山口市下竪小路115―3）【火曜日定休】

※年末年始等の施設休館に伴う御城印販売休止等については、山口市HPで情報を御確認下さい。



販売価格　1枚　220円
問い合わせ　山口市文化財保護課
TEL 083-920-4111

新刊情報

3部作最終巻!!

西国一の御屋形様

大内氏がわかる本

文化交流編

入門編・興亡編
好評発売中！

A5判　カラー120ページ
定価650円（税込）

販売所：文栄堂（本店・山口大学前店・ゆめタウン店・サンパークあじす店）、長州苑 本館、山口市歴史民俗資料館、鋳銭司郷土館、小郡文化資料館、山口ふるさと伝承総合センター、大路ロビー、山口情報芸術センター、湯田温泉観光回遊拠点施設「狐の足あと」、山口市菜香亭、新山口駅観光交流センター、文化交流課 歴史文化のまちづくり推進室（山口総合支所）・同分室（小郡総合支所）

問い合わせ 山口市交流創造部文化交流課
〒753-8650　山口市亀山町2番1号
☎083(934)4155　FAX 083(934)2670
E-mail：bunka@city.yamaguchi.lg.jp

『山口市史』ほか書籍販売のご案内

★既刊

◎『山口市史 史料編』全8巻
「大内文化」「考古・古代」「中世」「近世1」「近世2」「近代」「現代」「民俗・金石文」
（各巻七、三三〇円）

◎『山口市史』（昭和57年刊、平成9年追補）
（四、四〇〇円）

◎山口市歴史叢書一
『山口市の金石文―阿東・徳地・小郡・秋穂・阿知須編―』
（一、四三〇円）

◎山口市歴史叢書二
『山口市旧宮野村役場文書の研究―近代日本の変革期における地域社会―』
（一、八三〇円）

◎『大内氏受発給文書目録』
※PDFファイルにて公開中
○目録ご利用方法／大内文化まちづくりホームページ https://ouchi-culture.com（著作 山口市）上の、「大内氏・大内文化の歴史」→「大内氏関連書籍」→大内氏受発給文書目録にアクセス、PDFファイルを開いてください。ダウンロードも可能です。県立山口図書館、市立図書館には図書として配架されています。

◎『西国一の御屋形様 大内氏がわかる本 入門編』
（六五〇円）

◎『西国一の御屋形様 大内氏がわかる本 興亡編』
（六五〇円）

◎『山口市 幕末維新史跡ガイドブック』※残部僅少（七一三円）

◎『山口市 幕末維新人物ガイドブック』※残部僅少（五〇九円）

●販売場所／文化交流課（山口総合支所3階）、歴史文化のまちづくり推進室分室（小郡総合支所3階）等
※総合支所の地域振興課（山口・小郡総合支所を除く）での受け取りも可能です。

ガイドブックや「大内氏がわかる本」は市内の一部書店等での取り扱いもあります。詳細は市のホームページを御覧ください！

編集後記

今回取り上げた毛利隆元、内海忠勝、周布政之助は市内に関連史跡が色々あるので、ぜひ本紙を手に訪れてください。また、内海家文書についても、ぜひ山口市歴史民俗資料館の展示に足を運んで、内海の生きた証を目にしてください。

編集・発行　山口市交流創造部文化交流課
歴史文化のまちづくり推進室（分室）
〒754-8511　山口市小郡下郷609番地1（小郡総合支所3階）
☎083(973)2438　E-mail：s-hensan@city.yamaguchi.lg.jp
印刷会社　株式会社マルニ

©本紙記事・写真・イラストの無断転載を禁じます。　再生紙を使用しています。